

2023年9月期 通期決算説明会

三洋貿易株式会社（証券コード：3176）

2023年11月24日

目次

01

2023年9月期 実績

02

2024年9月期 業績予想

03

成長への布石

01

01

2023年9月期 実績

02

2024年9月期 業績予想

03

成長への布石

2023年9月期 業績のポイント

1

売上、利益ともに過去最高を更新
利益は業績見込を上回り着地

2

日系自動車メーカーの生産が回復し、
自動車内装部材が年間を通して好調

3

機械資材セグメントのグループ会社が好調
過去に実施したM&Aが着実に利益成長へ貢献

2023年9月期 連結実績

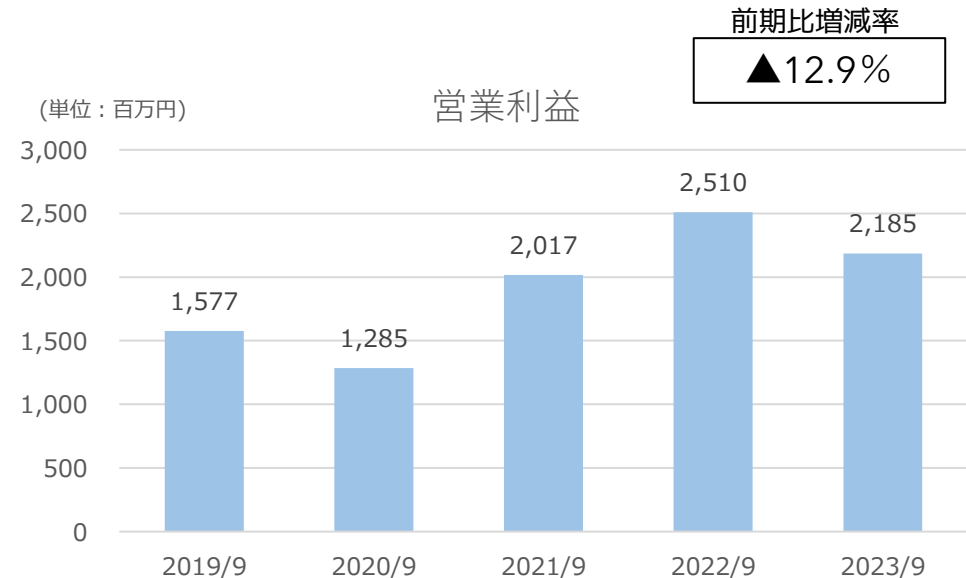
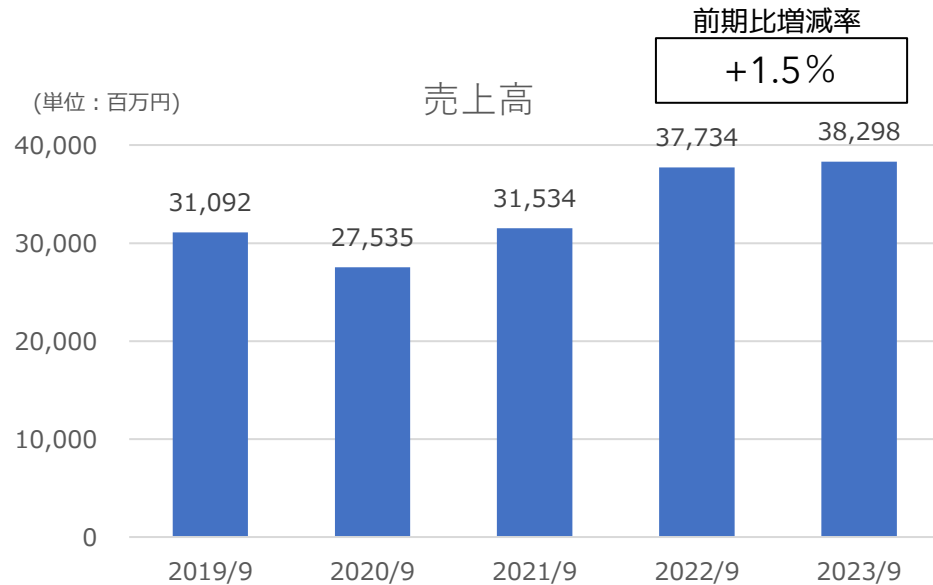
■ 売上、利益ともに前期比2桁%の増収・増益で過去最高を更新

(単位：百万円)	2022年9月期	2023年9月期			
	通期	通期			
	実績(A)	期初予想 (2022/11/8公表)	実績(B)	前期比 (B)/(A)	構成比
売上高	111,250	128,000	122,596	+10.2%	100.0%
売上総利益	17,144		20,473	+19.4%	16.7%
<売上総利益率>	15.4%		16.7%	-	-
販売費及び 一般管理費	11,825		13,732	+16.1%	11.2%
営業利益	5,319	6,500	6,740	+26.7%	5.5%
経常利益	6,299	6,800	7,149	+13.5%	5.8%
<経常利益率>	5.7%	5.3%	5.8%	-	-
親会社株主に帰属 する当期純利益	4,296	4,500	4,830	+12.4%	3.9%

化成品セグメント

【ゴム事業部、化学品事業部、ライフサイエンス事業部（マテリアルソリューション：MS）及びグループ会社】

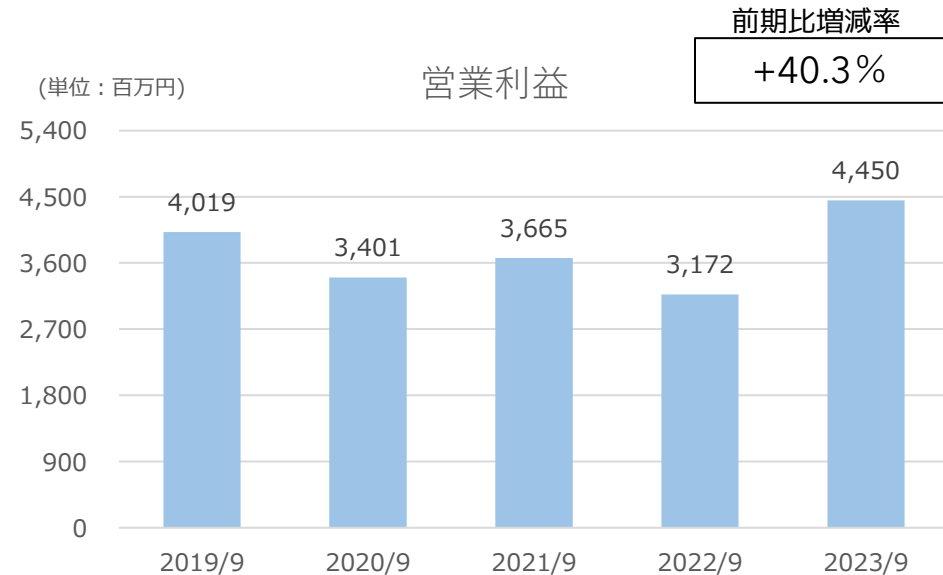
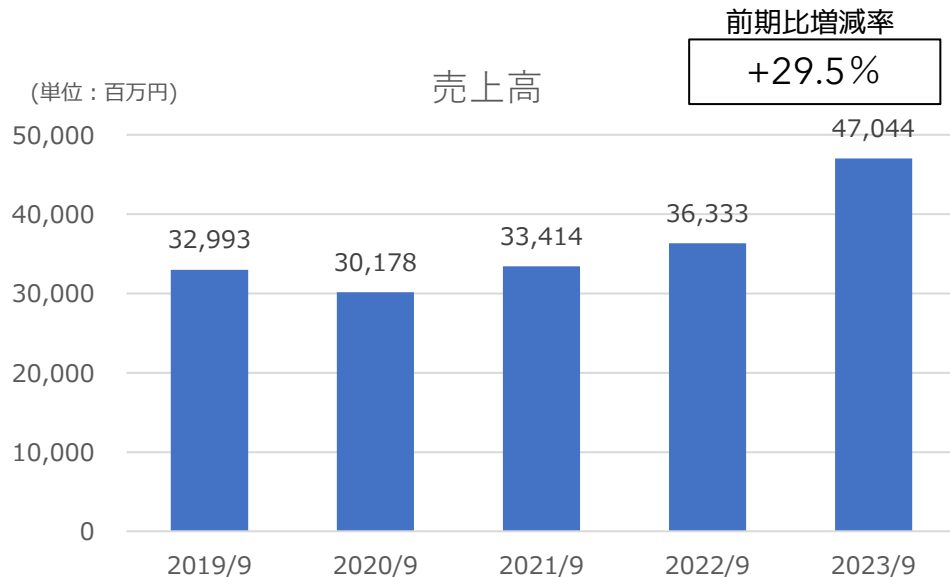
事業部	通期の状況
ゴム	<ul style="list-style-type: none"> •売上：昨年来の販売単価上昇や戦略商品の拡販等で増収 •利益：円安などによる欧米からの輸入品の仕入価格高騰や一部商材の一時的不調の影響を受け減益 •戦略商品/次世代商品の育成・拡販を推進
化学品	<ul style="list-style-type: none"> •売上：他社から移管を受けた新規取扱商材の拡販等が進み増収 •利益：主力商材の一部で、円安による仕入価格高騰の影響を受け減益
ライフサイエンス (MS)	<ul style="list-style-type: none"> •香料/染料など輸入ビジネスは好調を維持も、主力の電材、機能性食品原料などの輸出ビジネスが苦戦 •リチウムイオン電池関連部材は回復傾向



機械資材セグメント

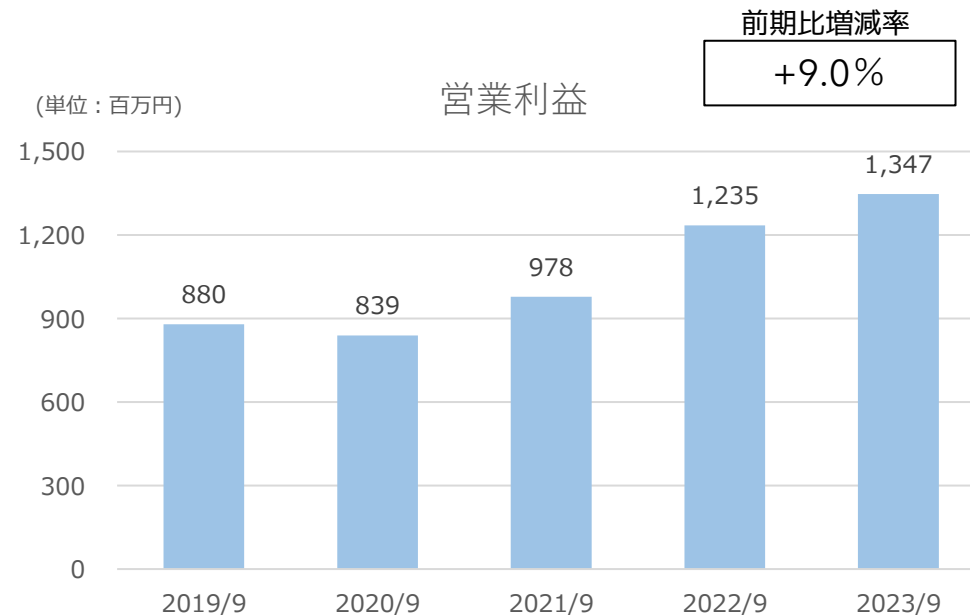
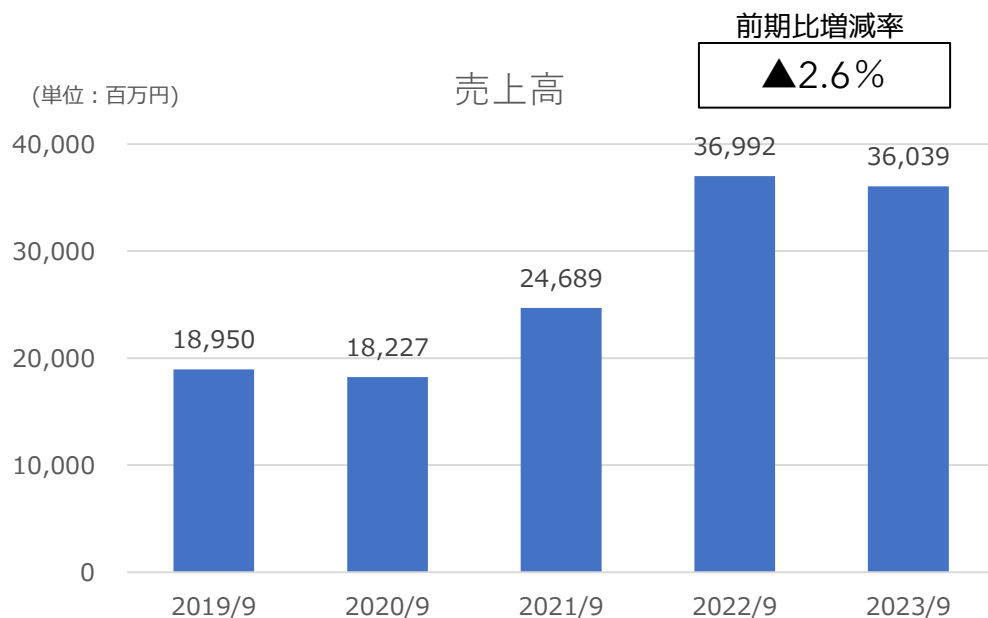
【産業資材第一/第二事業部、機械・環境事業部、ライフサイエンス事業部（科学機器）及びグループ会社】

事業部	通期の状況
産業資材	<ul style="list-style-type: none"> 日系自動車メーカーの生産回復が進み増収増益
機械・環境	<ul style="list-style-type: none"> 飼料加工機器：消耗品は値上げで堅調も、飼料業界全体の不振で本体案件の計上が少なく苦戦 木質バイオマス：本体物件の計上なく低調、保守・部品サービスの受注に注力 コスモス商事：地熱開発機材が好調を継続、石油・ガス関連機材も堅調 ワイピーテック：機能性飼料原料は主力製品の原材料の価格の落ち着きから好調
ライフサイエンス (科学機器)	<ul style="list-style-type: none"> 耐候性・腐食試験機、粒子分散測定機器などが堅調 スクラムは、前年比で堅調に推移



海外現地法人セグメント 【アメリカ・中国・タイ・ベトナム・メキシコ・インドネシア・インド】

事業部	通期の状況
海外現地法人	<p>売上は微減も、利益はアメリカの復調や円安の影響を受け増益</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ : フィルム関連商材の堅調な需要や、中国製車載モーターの追加関税影響が一巡し奏功 ・中国 : 自動車関連部品は景況感悪化を受け苦戦、リチウムイオン電池用関連部材は回復傾向 ・タイ : 自動車部品が好調も、他商材での販売費増の影響で利益は前期並み ・ベトナム : ベトナム工業全体の影響を受け低調 ・インドネシア : ゴム好調も、自動車関連商材で特定の取引先向け商品の販売終了があり利益前期比減



02

01

2023年9月期 実績

02

2024年9月期 業績予想

03

成長への布石

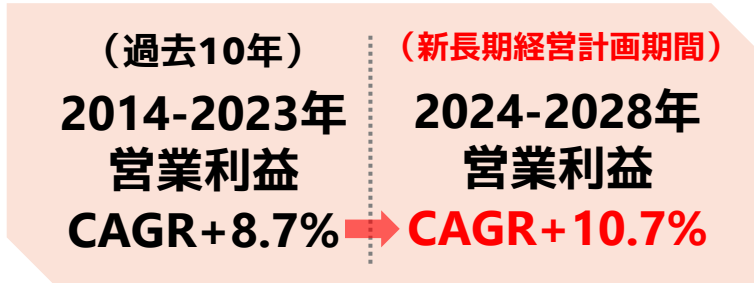
2024年9月期 業績予想

- 不透明な事業環境下ながら、売上は過去最高を記録した前期超えの見込み
- 利益は新長期経営計画の5カ年を見据えた戦略的先行投資により一旦減益を予想

(単位：百万円)	2023年9月期実績			2024年9月期予想		
	金額	前期比	構成比	金額	前期比	構成比
売上高	122,596	+10.2%	100.0%	126,000	+2.8%	100.0%
売上総利益	20,473	+19.4%	16.7%			
販売費及び一般管理費	13,732	+16.1%	11.2%			
営業利益	6,740	+26.7%	5.5%	6,000	▲11.0%	4.8%
経常利益	7,149	+13.5%	5.8%	6,200	▲13.3%	4.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	4,830	+12.4%	3.9%	4,000	▲17.2%	3.2%
EPS (円)	168.01	-	-	139.03	-	-

2028年までの成長カーブ

- 成長を加速させる為の先行投資を行い、2028年に営業利益90億円を目指す（2024年は踊り場）

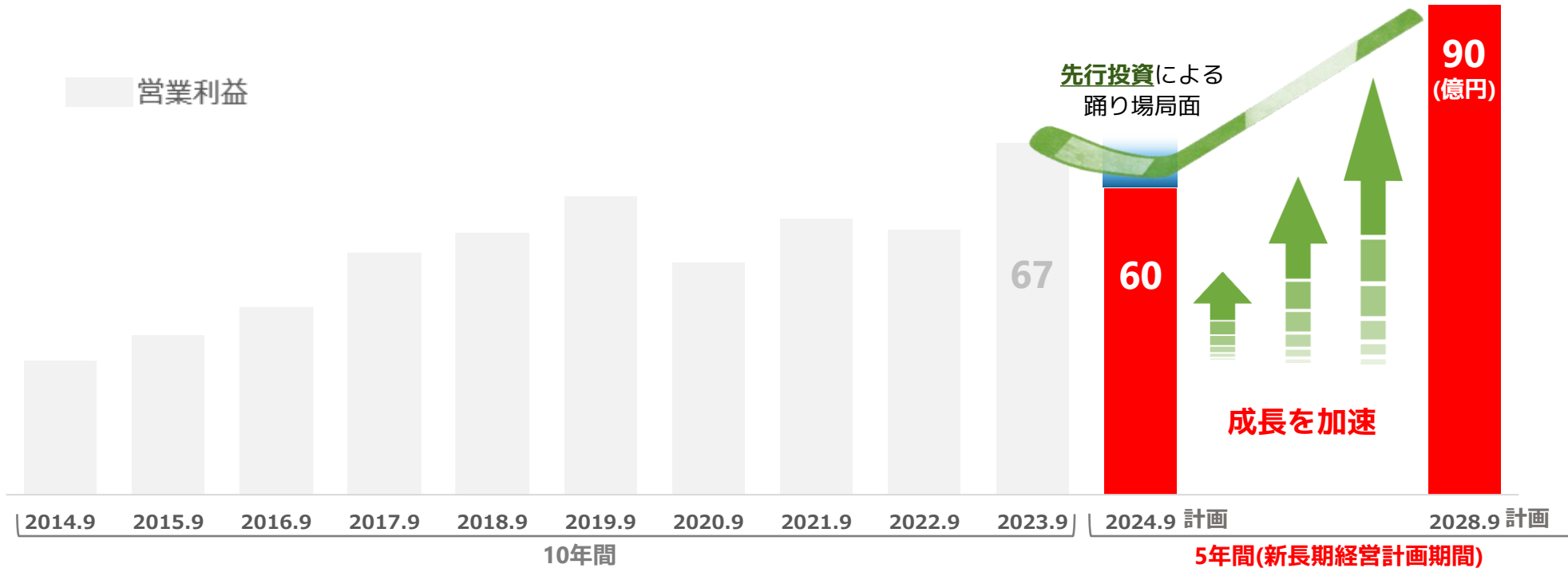


メガトレンド

- ✓ 人材流動化・獲得競争
- ✓ 新規ビジネス機会の萌芽
- ✓ DXの進展

成長への布石

- ✓ 人的資本への投資
- ✓ M&A、潜在コア事業開発
- ✓ IT投資



03

01

2023年9月期 実績

02

2024年9月期 業績予想

03

成長への布石

2023年9月期に行った打ち手の果実化イメージ

2023年9月期の布石

1. 新規商材開発

- ✓ 潜在コア事業
- ✓ 環境配慮型商材
- ✓ サステナビリティ

2. グローバル展開

- ✓ 欧州現地法人設立

3. M&A実施

- ✓ バイオ事業強化

全社で
推進

2028年9月期の果実化像

1. 継続的に新規案件を発掘、
種を蒔いた育成事業を
成長事業として果実化させる

2. マーケットインの視点から、
更なるグローバル展開を推進

3. 連結グローバル経営を推進し、
グループ全体での収益力強化

新規商材開発 — 潜在コア事業の果実化



モビリティ

Caresoft社 自動車ベンチマーキング事業の深化

- EV化に伴う市場変化への対応
- 「モノ売り」から「コト売り」への開拓



スキャンデータイメージ



瑞浪展示場 展示会場

～2023年9月期 今までの成果

2024年9月期～ これからの取組み

実績

データ販売 売上高前期比約**200%** 好調に推移中

顧客基盤、サービスラインナップ拡大で更なる伸長

顧客基盤

来場者 潜在顧客の拡大 4,000名超の来場者
展示数 10台

全国へのアクセス
群馬への出張展示会

- ✓ モビリティ事業に加え、**当社事業部間を跨ぐ顧客創出**
 - ✓ 全国へのアクセスを通じた、**新規顧客獲得**
- 15台へ拡大

サービスラインナップ

140台超の最新車両分解・解析情報

EVメンテナンス事業等、新たな**事業領域を創出**

新規商材開発 ー環境配慮型商材の拡販

サステナビリティ

Perstorp社 ISCC PLUS認証※1製品の販売

- 循環型経済への移行を図る有効な手立てとして ISCC PLUS認証を取得
 - 認証を受けた原材料提供を通じ、バリューチェーンでの顧客の温室効果ガス削減を支援
 - 化学的には化石由来製品と同一でありながら、原材料は再生可能あるいはリサイクル可能なものに由来
- 今後5年間で、**全体の売上規模2倍**への成長を目指し、**かつすべて環境対応品への切替を推進**



※1：国際サステナビリティ&カーボン認証。当社はISCC PLUS認証を取得済みで、その登録品において当社品を購入した場合、取引先毎にGHG（温室効果ガス）がどれ程削減できているのかを証明する、正式なSD（Sustainability Declaration）発行が可能となっている

サステナビリティ

エポキシ化天然ゴム※2

- 自然界での分解が可能。素材・使用用途、両側面で環境負荷が小さい
 - 世界で2社のサプライヤーのうち、当社が1社を扱う
 - 用途の一つ「ビーガンレザー」は天然皮革の代替品として需要増を見込む
- 今後5年間で、**売上規模2倍超**を目指す



エポキシ化天然ゴム

※2：天然ゴムの優れた力学的性質や皮膜形成能を保持したまま、ガス透過性や耐油性等の性質を付与することを目的として調製された改質天然ゴム。自然界での分解が可能で、環境負荷が小さい

サステナビリティの取組み

■ グリーンテクノロジー事業部(前 機械・環境事業部)に改称。サステナビリティへの取組みを加速

サステナビリティ

廃棄物の有効活用

木屑ペレット※1・堆肥ペレット※2

- 飼料用では国内で圧倒的シェアを持つCPM社製ペレットミルの領域拡大

(木屑ペレット)

- 国内木質建材の需要増加に伴う製材屑の有効利用
- 当社初の受注獲得。業界への横展開を推進

(堆肥ペレット)

- 家畜排泄物の肥料としての有効活用
- 高騰している化学肥料使用量の低減



CPM社 ペレットミル

※1 木の屑などを固めて製造されるペレット。化石燃料の代替として環境面で期待されているエコ燃料

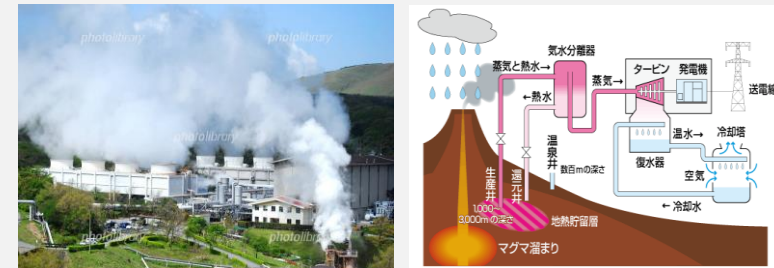
※2 家畜排泄物を適切に堆肥化し、農地に還元が可能。家畜排泄物処理由来の温室効果ガスの排出抑制や化学肥料の使用量の低減に資する等、持続的な農業生産に繋がる

サステナビリティ

再生可能エネルギーの活用

地熱発電(コスモス商事)

- CO2排出抑制効果が高いクリーンエネルギーとして、国も設備容量拡大を後押し
- 当社は掘削機材の販売・レンタルを提供
- 機械資材セグメントの利益増に貢献
- 過去の受注実績から当社は高いシェアを維持
- 毎年5-6件の新規掘削を見込み、受注を目指す



地熱発電の行程

新拠点の稼働 欧州地域-バイエルン州ミュンヘン市-



オフィス入口

■ 欧州での営業力強化・販路拡大・情報収集拠点

- ✓ 既存事業成長 … ドイツ：当社の顧客や既存取引先が多い
時差のない顧客対応含め、一段上の高付加価値サービス提供
- ✓ 新規事業開拓 … ミュンヘン市：モビリティ、IT産業、スタートアップ企業の集積地
マーケットインの視点で環境配慮型ビジネス等の強化

直近開設オフィス -今期から収益本格化-

- ・ Sanyo Trading Asia (タイ) / レムチャバンオフィスの稼働：グローバル販売本格立ち上げ 2023年11月～
- ・ Sanyo Corporation of America (米国) / アラバマオフィス本格稼働：生産体制を整え本格稼働開始 2023年7月～

M&Aの推進 — バイオ事業の強化

■ 本格的な産業化と巨大な新市場創出が見込まれるバイオ事業の拡充

サービスポートフォリオの追加・拡充

～育成事業から成長事業へ～

機会を捉えた投資実行により成長を加速

(バイオ事業の成長イメージ)

-バイオ研究支援機器・試薬の販売-

2022年2月
スクラム社
当社グループ参入



シングルセル解析前処理機器 / 専用試薬品

-バイオ創薬支援-
-遺伝子解析関連サービス-

2023年7月
KOTAI社
当社グループ参入



M&Aの方向性

- 注力4分野の強化に向け、独自の企業文化浸透を意識しつつM&Aを継続的に実施
- 飛び地案件は行わず、事業成長に結びつく案件をピックアップ

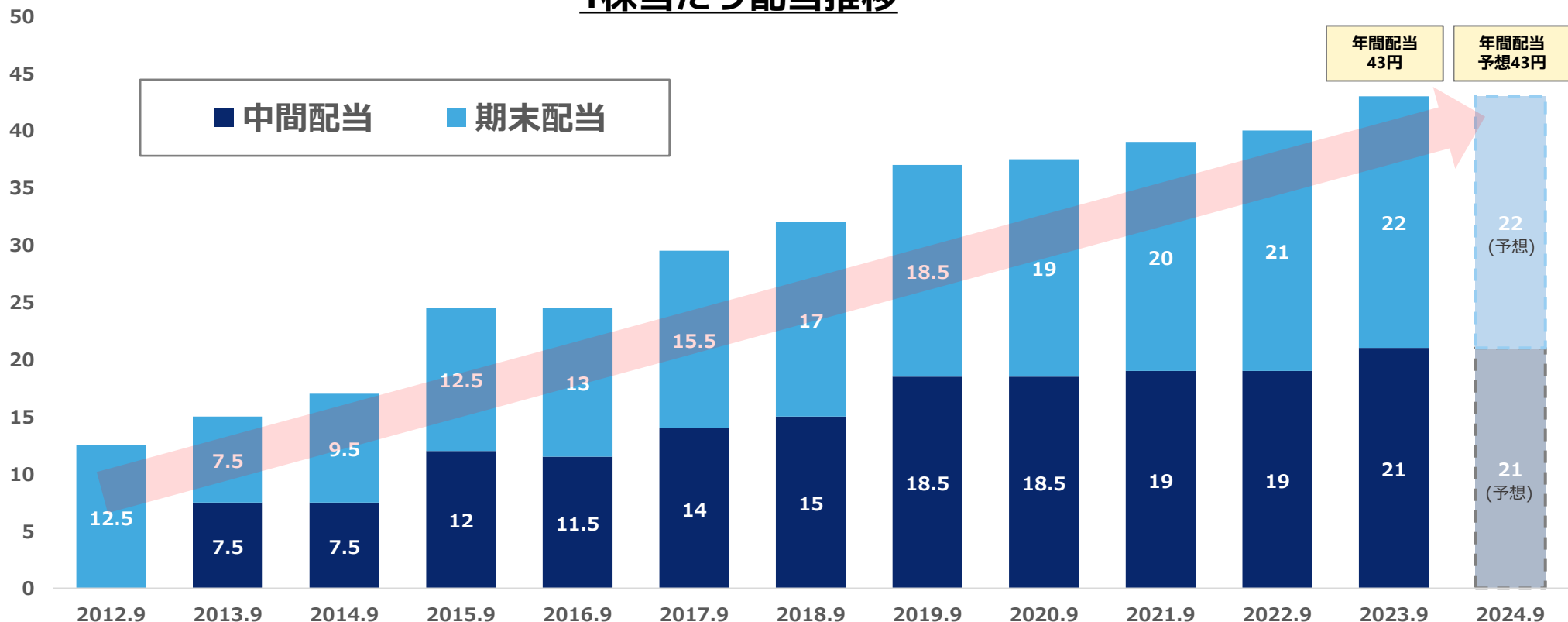
M&A目的 注力分野	相乗効果	成長性	海外展開	現在の姿
ファインケミカル	2016年 ソート ・UVインキ原料			化学品事業部に統合 SINGAPORE SANYO TRADINGとして事業化
	2015年 Bestrade Precision Singapore ・フィルム、電材			
サステナビリティ	2019年 ワイピーテック ・飼料添加物	2019年 新東洋機械工業 ・耐蝕ポンプ		グループ会社
ライフサイエンス	2017年 アズロ ・医薬原料	2020年 グローバル・トレーディング ・機能性化学品		ライフサイエンス事業部に統合 三洋ライフマテリアルとして合併 三洋テクノスとして合併 分析機器のみ 科学機器部に統合
	2020年 テストマテリアルズ ・理化学機器向け試験片	2020年 NKS コーポレーション ・食品添加物		
		2017年 古江サイエンス ・マイクロポンプ		
		2016年 日本ルフト ・医療機器、理化学機器		
		2022年 スクラム ・バイオ研究支援機器・試薬の販売		
		2023年 KOTAI ・バイオ創薬支援、遺伝子解析関連サービス		
モビリティ	2017年 日本フリーマン ・精密鋳造副資材			グループ会社
その他	2022年 コスモ・コンピューティングシステム ・ソフトウェア受託開発、システム開発			

株主還元について

- 期初予想を上回る利益計上を踏まえ、期末配当を21円から22円に増額 ※年間配当：43円
- 2024年9月期は減益予想ながら「一株あたり配当額」の安定的増額に重点を置く方針は不変
- 年間配当予想は43円を維持

(配当額：円)

1株当たり配当推移



Quest for Next

Appendix

セグメント区分

化成品

- ・ ゴム事業部
- ・ 化学品事業部
- ・ ライフサイエンス事業部
(マテリアルソリューション)

グループ会社

- ・ ケムインター
- ・ 三洋ライフマテリアル

機械資材

- ・ 産業資材第一事業部
- ・ 産業資材第二事業部
- ・ 機械・環境事業部^{※1}
- ・ ライフサイエンス事業部
(科学機器)

グループ会社

- ・ コスモス商事
- ・ ワイピーテック
- ・ 三洋機械工業
- ・ 新東洋機械工業
- ・ 三洋テクノス
- ・ 日本ルフト
- ・ 日本フリーマン
- ・ スクラム

海外現地法人

- ・ SANYO CORPORATION OF AMERICA
- ・ 三洋物産貿易（上海）有限公司
- ・ SANYO TRADING ASIA CO., LTD.
- ・ SUN PHOENIX MEXICO, S.A. de C.V.
- ・ 三洋貿易(ベトナム)有限会社
- ・ PT. SANYO TRADING INDONESIA
- ・ 三洋貿易インド株式会社

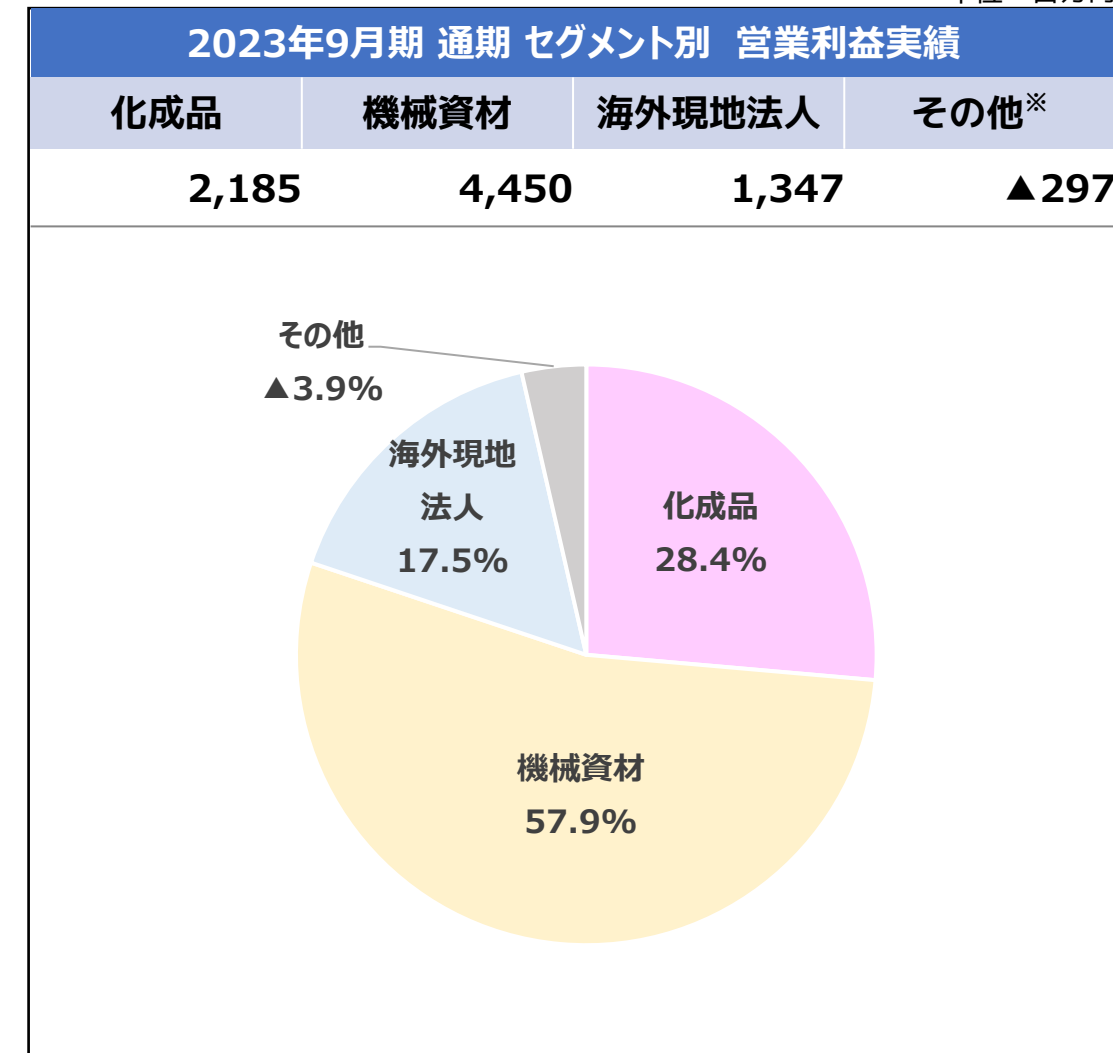
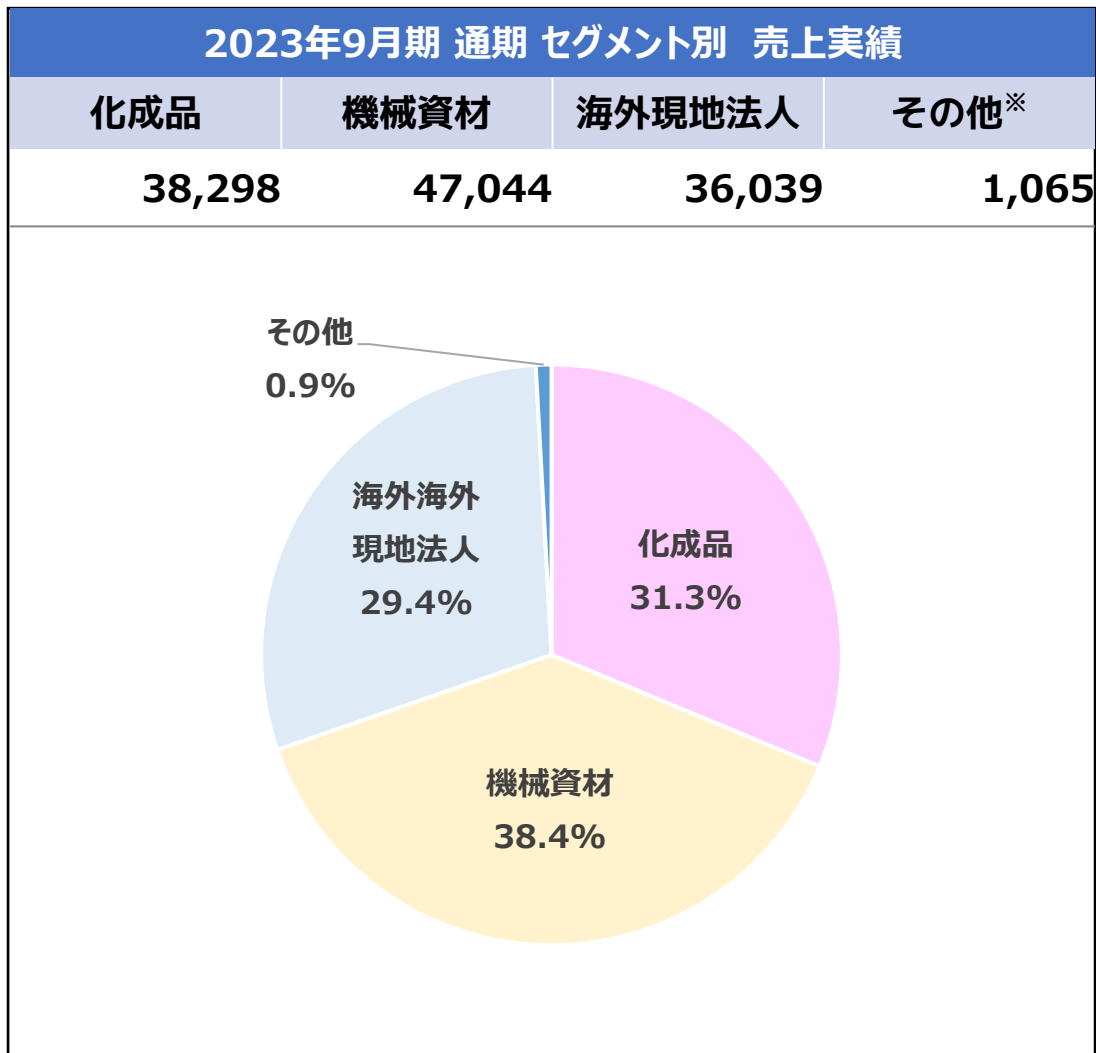
※1 2024年9月期からグリーンテクノロジー事業部へと呼称が変更になります

※コスモ・コンピューティングシステム社は報告セグメントに含まれない「その他」に含みます

※KOTAI バイオテクノロジーは2024年9月期から機械資材セグメントに含まれる予定です

事業ポートフォリオ

単位：百万円



(注) 連結調整前

(注) 連結調整前

※「その他」は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コスモ・コンピューティングシステム社を含む情報システム事業及び不動産賃貸業等を含んでいます。

競合他社との差別化要因

市場	事業部	競合プレイヤー	差別化要因
ファインケミカル	ゴム事業部	国内合成ゴムメーカー	<ul style="list-style-type: none"> ・ アランセオ社をはじめ世界一流合成ゴムサプライヤーとの取引 ・ 海外サプライヤーに対するプレゼンスの高さ ・ 国内/海外日系への共通在庫販売機能
	化学品事業部	化学系商社・メーカー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高付加価値商品を扱う技術系営業部員の専門知識と技術営業力 ・ 海外サプライヤーに対するプレゼンスの高さ ・ 新規商材(環境配慮型商材等)の開発・獲得に注力
モビリティ	産業資材第一事業部 産業資材第二事業部	国内外自動車部品メーカー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部品レベルでの一貫通貫型のビジネスを展開 ・ 日本品質にカスタマイズした海外の商材の取扱い ・ 自動車内装部材の新ニーズへの対応
サステナビリティ	グリーンテクノロジー事業部 (旧：機械・環境事業部)	木質ガス化熱電併給装置メーカー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飼料用CPM社製ペレットミルのシェアは圧倒的シェア ・ 経験と実績に裏打ちされた確かな技術で最適解を提供 ・ 機器の販売、プラントの設計・施工からアフターサービスまでの一貫対応
ライフサイエンス	ライフサイエンス事業部 マテリアルソリューション部	輸出：国内外メーカー、日系商社 輸入：化学系商社	<ul style="list-style-type: none"> ・ マーケットインに根差したグローバルでの商材発掘力 ・ 企業・大学との共同研究による新規商材開発
	ライフサイエンス事業部 科学機器部	国内科学機器メーカー 科学機器商社	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外の機器を販売からアフターサービスまで一貫対応 ・ 積極的なM&A(バイオ関連ビジネスのスクラム社等)

連結貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部	2022年9月期4Q (2022.9末)	2023年9月期4Q (2023.9末)	負債の部	2022年9月期4Q (2022.9末)	2023年9月期4Q (2023.9末)
現金・預金	5,879	7,031	支払手形・買掛金	12,767	11,838
受取手形・売掛金等	24,008	24,794	短期借入金	5,893	5,381
棚卸資産	23,125	23,429	その他流動負債	3,352	5,441
その他流動資産	2,119	2,033	長期借入金	177	333
有形固定資産	3,340	3,238	その他固定負債	1,456	1,651
その他固定資産	4,386	8,010	純資産	39,212	43,890
資産合計	62,859	68,537	負債純資産合計	62,859	68,537

【ポイント】

- ・ 運転資金増加、その他固定資産増加を利益及び借入で賄う

	2022年9月期4Q (2022.9末)	2023年9月期4Q (2023.9末)
有利子負債比率	15.7%	13.2%
自己資本比率	61.7%	63.4%

算出方法) 有利子負債比率 : 有利子負債 (※1: リース債務除く) ÷ 自己資本 (※2)
自己資本比率 : 自己資本 ÷ 期末総資産

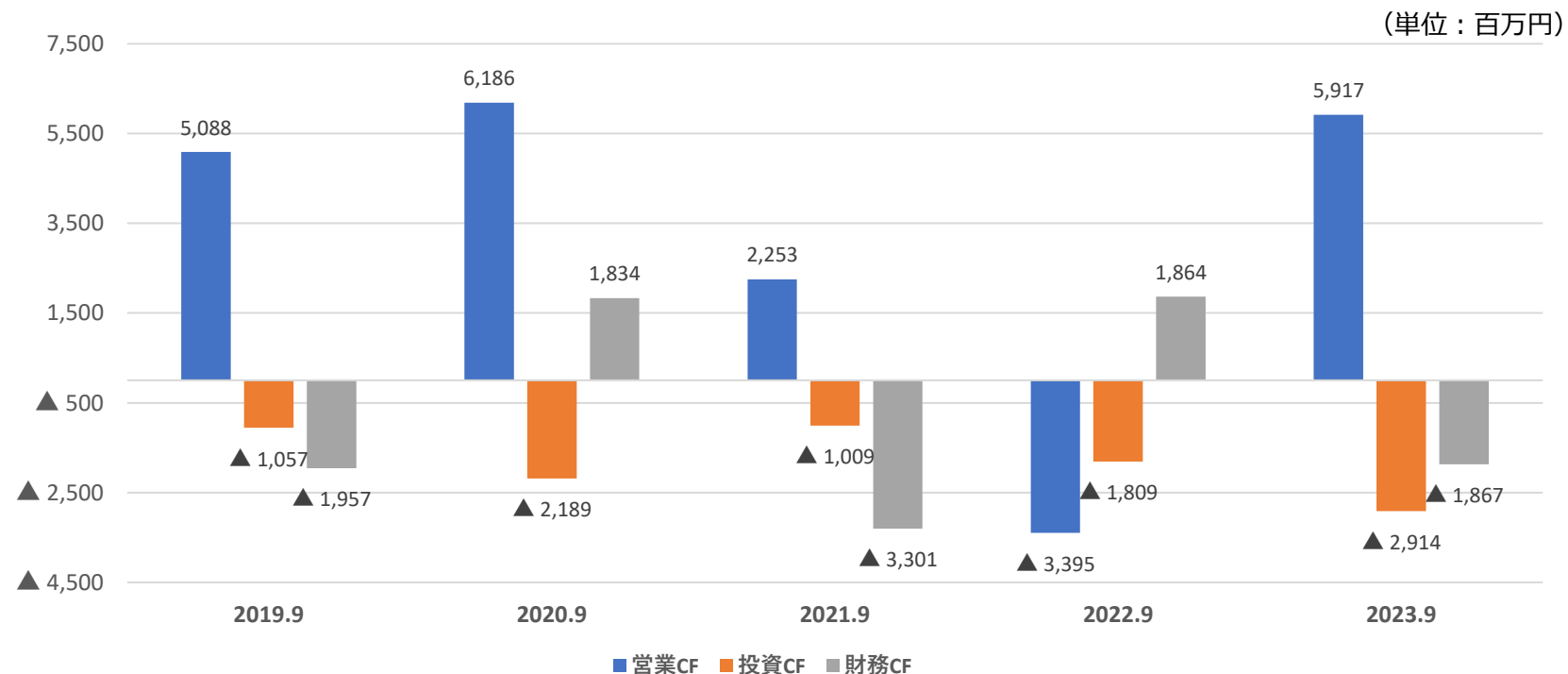
(※1) 有利子負債 = 短期借入金 + 長期借入金
(※2) 自己資本 = 純資産 - 新株予約権 - 非支配株主持分

連結キャッシュフロー

営業CF：適切な在庫管理等により黒字転換

投資CF：コスモ・コンピューティングシステム社やKOTAIの株式取得等

財務CF：配当金の支払や短期借入金の減少



	2019.9	2020.9	2021.9	2022.9	2023.9
営業CF+投資CF+財務CF	2,074	5,831	▲2,057	▲3,340	1,136
現金及び現金同等物の残高	4,548	10,418	8,663	5,718	6,900

IRに関するお問い合わせ先

三洋貿易株式会社 経営企画部長 難波 嘉己

電話：03-3518-1052 e-mail：ir@sanyo-trading.co.jp

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。